

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議（第2回）

2 開催日時

令和2年3月25日（水）午後2時から午後3時55分まで

3 開催場所

犬山市役所2階 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 西村幸夫、石田芳弘、服部敦、梅川智也、岩瀬正明、高橋秀治、小川征一、
武田光弘、柴田浩行、久世高裕
- (2) 執行機関 山田市長、永井経済環境部長、鈴木経営部長、新原観光交流課長、
小池観光交流課課長補佐、大谷観光交流課統括主査、櫻井観光交流課主事補、
井出企画広報課長、安藤企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、
中柴企画広報課主事

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 議題

【報告事項】

- ① 観光まちづくり会議について
- ② 調査の結果概要について
- ③ 専門部会の開催報告について

【協議事項】

- ④ 観光戦略の体系整理について
- (3) その他

6 傍聴人の数

なし（新型コロナウイルス感染拡大防止のため傍聴の受付をしていない）

7 内容

事務局

みなさんこんにちは。大変お忙しい中、またコロナで色々難しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より、第2回犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。コロナ対策ということで、マスクをしたままであることをお許しください。本日の会議につきましては、事務局としては充実した内容になるよう努めていきたいと思いますが、新型コロナウイルス対策という観点からも少しでも早く終了したいと考えておりますので、ご理解をよろしく願いいたします。

ではまずはじめに、犬山市長、山田拓郎よりご挨拶申し上げます。

山田市長

新型コロナということで、色々大変な時期に皆様方にはご参集いただきまして、観光戦略会議を開催させていただき、ありがとうございます。

好調な時には見えなかったものが、このような時にこそ課題として顕在化して見えてくるものもあるかと思えます。世間は自粛モードにありますが、観光においては、課題は課題として見極めながらも、将来に向けて夢と希望を観光戦略に織り込み、時期が来た際には行動に移し展開していくことが重要かと思えます。色々目の前の課題はありますが、未来に向けより良い観光戦略を作ることができるよう、今回の会議では皆様それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議にしていだければと思います。本日はよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。続きまして、西村会長よろしく願いいたします

西村会長

新型コロナウイルスによる危機管理をどうするかということは非常に重要な問題です。本観光戦略会議はあまり開催回数がないものですので、この機会に色々なご意見をいただければと思います。議題には載っていませんが、皆様にはフリーにご発言を募りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。ここで、2名の委員紹介をさせていただきます。前回、8月30日の会議から委員の変更がございました。11月1日の犬山商工会議所の役員改正に伴い、新たな会頭とられました高橋秀治様にこの戦略会議の委員に就任をいただきました。

高橋委員

11月より前任の日比野さんに代わり就任いたしました高橋です。今日は初めての参加ですが、今後ともよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。また前回は別の公務で欠席されました、愛知県観光コンベンション局観光推進監の武田光弘様にご出席をいただいております。

武田委員 愛知県観光推進監の武田です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。本日は委員総数 11 名のうち 10 名にご出席いただいております。佐分委員が新型コロナの関係で大学の会議が入り欠席となっておりますが、委員の過半数の出席がありますので、本日の会議が成立していることを報告させていただきます。

また、高橋委員におかれましては、本日別件で午後 3 時までには退席しなければいけないことを事前に伺っておりますので、予めご了承ください。

なお、この会議は通常公開で開催されていますが、本日は新型コロナの関係で、一般傍聴は受け付けておりません。会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますのでご了承ください。会議録につきましては、2 名の委員に署名いただくこととなっております。名簿順となりますので、服部委員と梅川委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは会議資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

第 3 回観光戦略会議日程調整表につきまして、既に提出いただいている方もいらっしゃいますが、未提出の方は後ほど回収させていただきます。会議の最後その他で次回の日程を決めさせていただきます。

それでは、以降の司会につきましては、会議規則に従いまして、西村会長、よろしくお願いいたします。

西村会長 よろしくよろしくお願いいたします。まず議題の 1 番目「観光まちづくり会議について」事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料に沿って説明)

西村会長 ありがとうございます。この件について、何かご質問ありますでしょうか。ちなみに今後はどのように進めていく予定でしょうか。

事務局 観光まちづくり会議については次年度も実施を予定しております。今年度は計 6 回実施しました。次年度も同じような頻度で実施できればと思っております。まずは城下町地区の課題が非常に多く出たので、事業者の方、住民の方の対話を促す場を何回か作りたいと考えています。一方、観光は城下町地区に限定される話ではないため、第 3 回でやったような犬山市全体への広がりをもたらすような対話の場を設けたいと考えております。なにより現場の生の声を聞きながら、現場の方同士で課題を見つけ、解決のための実践に進めていくよ

うな場にしていきたいと考えております。

西村会長 はい、その他いかがでしょうか。

久世委員 後の方の第4回の資料で分科会1のテーマが「商業組合を作るには」となっていますが、この議題を設定したのは誰なのでしょう。行政側なのか店舗側からなのか。

事務局 端的に言うと両方となります。1～4回の観光まちづくり会議を経て、事業者同士の横のつながりが持てない方がいて、色々な課題を改善するためには、その繋がりを深める必要があります。その一つの手法として組合を考えてみてはどうかという意見がありました。それは参加者の事業者の方からも出ましたし、我々も話を進めていくにつれ、こういったものがやはり必要なのかというところで、分科会の形になりますが、組合を作るにはというテーマを設けました。ただ、組合を作るにはと言っても中々難しいです。組合を作るには規約だとか決めていかなければいけませんし、組織として一つ立ち上がらせるのは本当に難しいと思いますので、具体的に組合と言うよりは、連携を深める取り組みを何か考えようということで話し合いの場を設けたという流れになります。

西村会長 はい、その他いかがでしょうか。

もう一つ質問なのですが、観光まちづくり会議分科会1及び2の開催は2月であり、新型コロナウイルスが本格的に流行する直前の時期かと思いますが、新型コロナウイルス対策についてのまちづくり会議の中で議論していくことは考えておられますか。

事務局 西村会長のおっしゃるとおり、2月19日と22日というのは、メディアで新型コロナウイルスについて取り上げられてはいましたが、この会議の場では具体的な話題にはなっていません。ただし、状況が随分変わっています。観光まちづくり会議では、現場に関わる人が直面している課題について語り合うことをテーマにしていますので、当然今直面している課題として、コロナウイルスの影響はありますので、今後のまちづくり会議については、年度が明けてから設定するのですが、そういった話も議題に上がってくるテーマとして語り合えればと考えております。

西村会長 是非、何かそれが何らかの対策に繋がるように考えてもらえれば凄く良いと思いますので、考えてみてください。

その他よろしいでしょうか。はい、それでは次にいきたいと思います。

2番目、「調査の結果概要について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

(資料に沿って説明)

西村会長

はい、ありがとうございます。貴重なデータの数値を示していただきました。このことについて何かありますでしょうか。

岩瀬委員

一点よろしいでしょうか。資料2の19頁、宿泊者の動向のところ、犬山市の宿泊者数は減少傾向にあると述べられています。これは私どものところで申し訳ありませんけど、19年度に私どもの犬山ホテルが1番大きな宿泊数を誇っていたのですが、営業を終えていますので、従って、9月～12月の4か月間は宿泊者が0となりこういう傾向なのですが、それまでの1月～8月までの傾向でいきますと、実を言うと対前年度を上回っていました。ですので、この14万人ぐらいで大体低下しているというのは丁度閉館した頃だったと思います。そのため、こういった傾向が顕著に出てしまったのではないかと思います。

西村会長

はい、ありがとうございます。

調査結果全体として、これまで感覚として把握していたことが数値で表れたというところでしょうか。新しく思いもしなかったことが出てきたというよりも、具体的なきちんとした数字で裏付けされたというところでしょうね。

石田委員

只今、岩瀬委員から名古屋鉄道の立場で情報提供があったので、私からも情報提供をさせていただきます。資料2の24頁に鶺鴒についての記述があり、犬山市の観光イメージで鶺鴒の数値が低下しているとあります。鶺鴒については、毎年、鶺鴒を行っている全国12箇所から鶺鴒関係者が集まる全国鶺鴒サミットが開催されており、昨年は京都市で開催されました。全国では漁業組合や観光関係者が鶺鴒を担っているところが多いです。鶺鴒の入り込み客数は12箇所軒並み減少傾向にあります。これは、昔に比べて大雨や台風等の自然現象による中止が圧倒的に多いことも要因として挙げられます。鶺鴒は野外で実施するものであり、止めようのない傾向であります。鶺鴒関係者で話し合いも行われておりますが、解決策がない状況です。ただし、全国12箇所の中で、犬山市は鶺鴒が唯一市職員であり、安定していると言えます。犬山の場合は、木曾川観光で営業活動はしていないので、観光協会が担ってくれています。日本で鶺鴒を行っているところで、持続性の面で最も強いといえるのは犬山です。鶺鴒が市職員であること、この会議で観光というものを市の重要な施策として位置付けられれば、観光協会と一体となってやれますし、犬山が全国の鶺鴒を引っ張っていかなければいけない、そんなことを感じていました。

西村会長

どうもありがとうございます。その他いかがですか。

武田委員

インバウンドに関してですが、愛知県の数字でいうと、中国、台湾、香港などの東アジアからの来訪が多いです。新型コロナウイルスの流行以前から、国・地域の偏りをなくすため、欧米豪へシフトするためプロモーションを行っていますが、なかなか変わらないのが現状です。また、新型コロナの関係で、全世界的に旅への自粛というのが出てくるとは思いますが、なるべく分散してお客さんに来てもらうように、より加速しなければいけないと思っているところであります。

その中で、犬山市は東アジアも多いですが、アメリカ、豪州も多いとの調査結果が出ています。県としましては、愛知県といえばこれだというものを出していく必要があると考えています。それを考えたときに、犬山市は欧米豪に対してブランド力があると思っています。数字にも出てきていますが、愛知県には珍しく欧米豪に人気がありますので、観光戦略策定時にターゲティングの話が出るかと思いますが、宿泊を伸ばすという話になると、より欧米豪のお客さんの方がより長い時間をかけて来られており、泊まれる可能性も高いので、観光戦略の中でインバウンドに関するターゲティングのところ、欧米豪にも注目していただきたいと思っております。

西村会長

ありがとうございます。その他いかがですか。

小川委員

武田委員からお話がありましたので、少しフォローさせていただきますと、今年は新型コロナの影響で犬山祭は開催されませんが、台湾から犬山祭を見学に来るということで、契約をしていました。そして、鶺鴒にも来るということで初めてのケースで楽しみにしていたのですが、現在の状況を見て断念しました。しかし、このようなことから、鶺鴒についても、犬山の観光についても希望が持てる状況ですので、一つ付け加えさせていただきます。

西村会長

ありがとうございます。また何かありましたら最後にご発言の機会がありますので、よろしくお願ひします。

続いて、議題3「専門部会の開催報告について」事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に沿って説明)

西村会長

ありがとうございます。専門部会の会長もいらっしゃるのです、会長から何かありますでしょうか。

服部委員

次の議題で説明いただく資料4にも関わることですが、4回の専門部会を経て、梅川先生を始め、観光協会、商工会議所、名鉄さんの専門部会委員に発言していただきまして、これからの議論のための様々な素材がかなり出揃ったの

ではないかという印象があります。逆に言うと、素材がかなり広範囲に出揃ってきたので、一見かなり広いものを取り扱っている感じがありまして、この中でどうメリハリをつけていくのか。やはり犬山の個性というか、犬山らしさというのが一つのキーワードで、犬山らしさを表すキーワードを据え、そこからターゲットや施策に落とし込むことが今後必要になってくるだろうということまで議論がきています。今日は、次年度に向けて、広がった素材の中から犬山らしさをどう捉えて、どこに重点を置き、何を優先して議論を進めていくのか。その指針になるようなものが今日の議論であると今後に繋がっていくかと思えます。そこに向けての専門部会としては途中段階という認識ですので、そういう意味では、指針になるような議論が今日出てくるとありがたいと思っております。

石田委員 専門部会は2回傍聴させていただきましたが、服部部会長がしっかりと方向付けをしながら議論を進められており、良かったと感じています。

一方、観光まちづくり会議は、色々な人に意見出しをしていただく必要があることも分かりますが、外からの視線が全くなく、意見や主張を言いっ放しになってしまっていると感じます。外部の視点や長期的視点が全くないため、今後どのように開催していくのかを考えることが重要であると思えます。専門部会の委員の方に観光まちづくり会議の様子を見てもらうことなども必要と考えます。

西村会長 もうひとつ、梅川委員も専門部会のメンバーなので何かコメントがあればお願いいたします。

梅川委員 服部委員のおっしゃるとおりなのですが、結構本質的なところを議論しなければいけないので、これから犬山観光が何を指すのか、日帰り観光地で終わってしまうのか、それとも宿泊をきっちりやっていくのか。先程のデータでもありましたけど、数を追うのではなく質を追うためにはどうしたら良いのか等、重たい議論が必要だと思えます。そういった議論は専門部会で出来るので、進め方については非常に良いと思っております。特に犬山らしさの議論については、本質的なものなので、もう少し深掘りしていければなと思えます。

西村会長 ありがとうございます。これも今後とも続けていただければと思います。その他この件に関して何かありますか。

武田委員 先ほどまちづくり会議の中で、色々と意見が出たということでしたが、逆にその中で犬山が自慢だよという話もおそらく出たのではないかなと思うのですが、その辺の意見がもしあればお伺いできたらと思います。

事務局

どうしても課題部分にフォーカスが当たってしまいがちですが、犬山市の魅力は何かを考える場も設けていまして、その中で課題は多いのだけど、逆に良いところも意見としては多く出ています。自然やお城、祭り、鶺鴒等、色々なものがあること、何よりも犬山の人は犬山が好きということを改めて確認できました。各々愛着がある反面、上手く行っていないことに対して課題が多く出てきているところでは。テーマパークも含めて犬山の魅力というのが豊富にあることはこの観光まちづくり会議での意見として多く出ています。それらをどうしていくか、住民、事業者の方がどうしていきたいのかというところは、まだまだ道半ばといえますか、もっと議論、対話をしていくべきと考えています。

西村会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

それでは次に本題になりますが、議題4「観光戦略の体系整理について」事務局から説明をお願いいたします。

事務局

(資料に沿って説明)

西村会長

ありがとうございます。それでは次に、部会長の服部委員、追加でご説明をお願いいたします。

服部委員

改めて補足させていただきますけど、資料4の体系整理について、当初は真ん中の目指すべき観光地の姿の部分が薄かったのですが、専門部会での議論の中で目指すべき観光地の姿が明確になってきたところが大きな成果かと思えます。

課題があり、その課題解決のために何をするのかを一直線にするのではなく、観光ですので、ターゲットから出発して考えることにしました。その結果、ターゲットは、現状に根差して8つとなりました。8つとしていますが、このターゲットは広めに設定してあるため、熟度を考えながら3年のアクションプランで重点的に取り組むものについて絞り込むことが必要となります。優先順位付け、絞り込み後に、施策の設定をしていくことになるでしょう。この体系整理は、今後の方向性に係るベースとなります。

犬山市の歴史に根差して考える必要があるという話も出ました。近代の犬山は観光地として発展しました。一時期“観光地感”が薄れたこともあり、昔栄えた観光資源が失われている部分もあるため、それらを再発見し、観光資源として価値付けすることが必要でしょう。その際のベース、指標となるのが歴史、文化、自然かと思えます。例えば、昨今、観光資源としての木曾川への関心が薄らいでいますが、かつては景勝地犬山のベースとなっていました。価値が無くなったのか、それとも魅力が無くなってしまったのかを考える必要があります。また、本当の犬山らしさとは何なのかを考えることに繋げていければと思っております。

西村会長

ありがとうございます。今日は、大体このような方向で良いかを決めていくのが今回の観光戦略会議のメインなので、何かご意見があればお願いいたします。

梅川委員

目指すべき観光地の姿が今3つ出ていますが、正に戦略となるため、ここをしっかりと固めることが今日の会議で一番重要かと思います。そこを踏まえると基本理念が出てくると思います。犬山観光の戦略としては、これを踏まえて、私は4つに整理してはどうかと思います。

1つ目は、目指すべき観光地の姿にあげられている、ゆっくりと歴史・文化・自然が楽しめる観光地に関連し、歴史・文化で言えば、城下町文化を前面に出していくことです。ここまで城郭都市が残っているのは珍しいため、城下町が持っている文化をきちんと理解してもらうためには、ガイド育成も必要となります。城下町にガイドがいつもいて、すぐに城下町文化に触れられるような状態が良いかと思います。犬山市の歴史・文化と言えば城下町文化、自然は木曾川のことになるかと思います。何でもあるということは、観光においては何も無いことと同義です。きちんとこれが売りだということを明確にすることが重要です。その中で選択と集中というのをやっていかないといけないと思います。

2つ目の戦略は、「犬山ならではの感動が得られる観光地」とありますが、これは少しボヤッとしていますので、おそらくここはインバウンド戦略を明確にしていくことだと理解しています。とはいえ、インバウンドは新型コロナウイルスの影響でしばらく来ません。ただし、1年後にオリパラが開催されるとなると必ず戻ってくると思われるので、1年間を準備期間と考えれば、戦略のバージョンアップが可能です。少しインバウンド戦略を深掘りし、データを見直しながら考えることが2つ目の戦略かと思います。

3つ目、「犬山人のおもてなしに出会える観光地」で具体的に考えると、私は、名古屋から至近距離にある立地と、製造業が多いことを活かした MICE 戦略の打ち出しだと思います。犬山 MICE とは何かを考えると3つあります。まず1つ目は、これからできるホテルインディゴや、迎帆楼の高級な旅館、ホテルがあるわけですから、VIP に対応する、或いは、インセンティブに対応するようなお客さんを誘客することが必要だと思います。2つ目は、名古屋で開催され、分科会を犬山で開催する、アフター MICE を犬山で行うといった戦略も考えられると思います。3つ目は、企業のセミナーや研修の場が不足している現状があるため、そういった場として犬山は良い場所であると思います。

MICE を進めるうえで最も重要であることは、基本的な施策の方向性の一番下に記載がありますが、推進組織・体制を整えることです。今の観光協会が担うことができれば良いですが、MICE に特化していくと、また違った戦略や活動が必要になるので、それに対応できるような推進組織体制を構築することが戦

略なのかなと思いました。それは観光庁が進めている、DMOの延長になるかもしれない。現在、観光庁がDMO戦略を見直しているため、方針がもう少し出てくると思いますが、国の動きも踏まえながら犬山市のDMO戦略を考えていくと良いかと思います。

最後に4つ目として、西村会長が冒頭でお話しされていましたが、リスクマネジメントの話が無いので、どこかに入れるべきかと思います。企業ではBCP（事業継続計画）の普及が進んでいますが、観光地では全くその考えが普及されていません。観光版のBCPとして、私はDCM（Destination Continuity Management）と言っています。例えば、有馬温泉では、SARSで観光客が来ない間、旅館の人々が旅館や町の掃除を行っており、面白い取り組みとしてマスコミにも取り上げられて良かったので、今回の新型コロナウイルスの騒ぎの中でも再び行っています。そういった清潔感というのは非常に重要なので、ここは危機管理戦略の中に一つ、清潔なまちというのも入れておく必要があるかと思っています。

西村会長

梅川委員からは、城下町文化、木曾川を売り出すということ、インバウンド戦略においてターゲットをもう少し見据えること、これまで犬山にはMICEの発想がありませんでしたが、犬山MICEについて考えていくべきではないかということ、そしてMICEをコーディネートする推進組織の必要性、最後に危機管理の話をしていただきました。ありがとうございます。

久世委員

事業者としての意見になりますが、この体系整理を見てあまりピンと来ません。現在、本町通では若い女性が多く、若い女性の来訪という点では、新型コロナウイルスの影響も見られません。逆に、私の店は3月に入ってからお客が増え、売上も伸びています。新型コロナの影響で観光はどれも落ち込んでいるというイメージを持たれているかと思いますが、犬山では逆の現象も起きていて、女性受けする店舗は大行列となっています。ただし、店舗によって状況は異なり、女性受けのしない店舗は来客数が激減し、閉めた方がマシな状況になっています。そういったムラというのが、現状の体系整理からは、あまり見えてこない印象です。

また、若い女性が増え、食べ歩きが盛り上がっているのは何故なのかという分析がされていないように思います。恋小町だんごや、ハートをかたどったものが売られています。恋小町だんごのヒットは、焼きそば屋さんが起死回生でカラフルなだんごを販売し、インスタグラムを代表としたSNSで注目されたことが始まりです。それに他の店舗が追随して今の状況になっています。歴史・文化を求めて犬山に来る人もいないわけではないですが、今の爆発的なブームにはまったく関与していないと思います。ただし、インスタで宣伝し過ぎることは逆効果になることもあります。あくまで商品が良くなければ注目は浴びません。商店が必死で作ったものが世間に認められたことがきっかけで城下町に人

が集まっていることを特に行政側には掘り下げていただければと思います。

若い女性が多く訪れることを踏まえると、体系整理からおしゃれさや可愛さが見えてこないため、少し硬いのではないかと思います。おしゃれさ、可愛さを匂わせる観光戦略になると良いでしょう。

さらに、分析について言えば、雇用を増やすためにはどうすれば良いのかについて分析が必要と思います。店舗で雇用を増やすためには、安定して仕事があること、つまり、安定してお客さんが来る必要があります。ある特定の時期のみ働きたいという働き手はいません。平日、休日の差なく観光客が訪れることが一番雇用を生むと思いますので、ここの分析、掘り下げもお願いいたします。

西村会長

今の現状をしっかりと分析してほしいこと、安定した雇用を生み出すような戦略を考えてほしいということですね。他にいかがですか。

石田委員

城下町を中心に観光客に来ていただけていることは、犬山市に魅力があるからであり、ありがたいことです。何故観光客が犬山市に来ているかという根底には、残すべきものは残さなければならないという都市計画の価値観の下、道路拡幅を辞めて美装化し城下町を取り戻したことがあるでしょう。名古屋のまちづくりの考え方では、失うものをどんどん失ってきていますが、犬山市には現代日本が失ったものが残っています。昔見たことがある光景を求めて観光客は訪れているのだと思います。

城下町のまちづくりについて考える上では、本観光戦略会議には、犬山城や犬山まちづくり株式会社もメンバーに入れるべきです。また市では観光交流課、企画広報課がメンバーに入っていますが、教育委員会や歴史まちづくり課も入れる必要があるのではないのでしょうか。

先ほどの久世委員のような視点も踏まえながら考えていく必要がありますが、前に行くばかりではなく、歴史にも立ち戻りながら考える必要があるかと思えます。

木曾川については、吉田初三郎や名古屋鉄道の応援のお陰で国の名勝に指定されており、川の部門での名勝は犬山のみです。木曾川と犬山城、城下町が三位一体となっており、過去の魅力に遡ることができることから、観光客に来ていただけていると考えます。

犬山祭についても、町内が疲弊して存続できないのではないかとも言われていますが、実情ではそのようなことはありません。外部から多くの協力者が来られていますからね。古いものを守っていくことが必要だと思います。

西村会長

人を惹きつける空間的魅力というものがあるかと思えます。犬山市の城下町は、名古屋市で人を呼び込んでいる大須観音の道幅と似ています。

久世委員	若い女性は、青い空とカラフルな商品の組み合わせ、いわゆる“インスタ映え”するものを好む傾向にあります。そして、これらは歴史・文化とマッチします。例えば、ハートの模様は猪目型と言い伝統模様ですし、お城の屋根に付いている懸魚もそうです。日本の伝統文化の中にも可愛いものやおしゃれなものがあり、それらを再発見することで現在の観光の戦略にも合ってくると思います。
西村会長	他はどうですか。
岩瀬委員	今回の観光戦略は、20年先を見据えた10年間のプランを作っていて、そのうちの3年間のアクションプランになると伺いました。久世議員が言われたことは戦術的な部分だと思いますが、まずは原則的なところ、骨格が必要となります。その後にはまちづくりの話等、具体的な話、アイデアが出てくるかと思えます。議論がバラバラになるのはいけませんから、まずは目指すべき観光地の姿という大枠の中を固めてから進めて行く方が良いと思います。
西村会長	20年先を見据えた中での3年間のアクションプランとなりますので、本日は大きな方向性についてご意見いただければと思います。
岩瀬委員	<p>名古屋鉄道は、犬山市内に明治村やリトルワールド等の観光施設が集積しており、市と一心同体で取り組んでいます。その中で、私どもとしても犬山における観光戦略を作り直そうとしているところです。</p> <p>MICEの話がありましたが、私どもは難しいと思っています。以前の名鉄犬山ホテルではバンケットがありましたが、今回、ホテルインディゴ犬山有楽苑ではバンケットを設置することをやめました。民間事業者がバンケットを作るとは、儲けが出ないために難しい状況になっております。ホテルインディゴ犬山有楽苑では個人客をターゲットにすることとしており、小さなMICEであれば対応できますが、箱物ができなければ一般的なMICEはできないと思います。民間ではリスクを伴います。</p> <p>インバウンドも大切ですが、関東、関西からなかなか呼び込めていない状況です。近隣地域の人々の来訪はありますが、関東、関西からの来訪が少ないことは課題であり、関東、関西マーケットにどのようにPRするのが難しいです。私どもの東京への宣伝は明治村一本でやっています。関東からの来訪が少ない要因の一つとして、あちらの人にとって、岐阜と犬山が似ているということが挙げられます。温泉、鶺鴒、城があること等が類似しています。そこで、行き先を選ぶために岐阜と犬山を比べた場合に、岐阜市は県庁所在地でもあり、ホテルが圧倒的に多く、宿泊地としてのイメージが強いです。その中で、犬山市が勝てる部分としては、昼鶺鴒があります。昼鶺鴒を行っているのは全国でも犬山市のみです。犬山市ならではの素材を集め、発信することが重要だと考え</p>

ています。

梅川委員

たしかに、現状で大規模な MICE 開催はなかなか難しいでしょう。ただし、フロイデや文化会館などの施設は多くあるので、それぞれの施設でどういった会議に対応できるのかを調べた方が良いかもしれません。犬山らしいどのような MICE が誘致できるか、はっきりしてくるでしょう。例えば、“アーバンリゾート MICE” といった、会議をして鵜飼を見る、川辺を散歩できるといった、都市近郊のリゾートでのコンベンションといった、犬山らしい MICE の検討も重要です。

服部委員

大規模な MICE を行うためには箱物が必要ですが、犬山ではそういった施設がなくなりつつあります。名古屋についても、バンケットがなくなりつつあり、国際展示場も都心部から郊外へ移転しています。名古屋市に近い犬山としては、大きな MICE を誘致するのであれば箱物が必要で、そうでないならば、ユニークベニューを活かして、小さな MICE を誘致するといった戦略があるかと思えます。

また、関東マーケットについては、リニア中央新幹線の開業をきっかけとして、いかに関東マーケットを引っ張ってくるか、またその際、岐阜市と比較していかにして犬山市の魅力を追及するのが鍵となるかと思えますが、現状では宿泊が弱いと感じます。ホテルインディゴ犬山有楽苑の開業を契機に宿泊イメージが高まってくると良いでしょう。犬山市に行けば泊まれる、というイメージを創出していく必要があると思えますが、そのあたりをもう一度、岩瀬委員にお聞きしたいなと思えます。

岩瀬委員

先日、ホテルインディゴ箱根強羅を見に行きましたが、犬山のホテルインディゴ犬山有楽苑の方は、箱根と比べて川幅が広いので、対岸の民家との距離をとることができるため、より立派なものにできていると思っています。犬山にホテルインディゴが出来るのであれば、1泊は名古屋、もう1泊は犬山として、名古屋から送客したいというホテル事業者の声を聞いています。木曽川周辺が宿泊地として活性化すれば、新たに進出する施設がでてきて、色々な客層も来て、活況をていしていくのではないのでしょうか。

石田委員

資料1の観光まちづくり会議分科会で意見を出された人達に、このような人々にいかにして、ここでの議論を伝えるかを考える必要があります。市民と関わる機会の多い柴田委員に是非意見を伺いたいです。

柴田委員

体系整理内で目指すべき観光地の姿として挙げられているものの中では、「犬山人のおもてなしに出会える観光地」が一番の鍵かと思っています。観光と言いますが、主役は住民だと考えています。住んでいる人が楽しいと思える

まち、誇りを持てるまちにすること、住んでいる人に誇りをもってもらえる柱が必要になるでしょう。本日皆さんからいただいた意見、市民の意見を踏まえて施策を考えていきます。くり返しになりますが、主役は市民だという視点で考えていきます。

石田委員 観光客にあまり感謝の気持ちがない人々の意見について、どのように説得していくのか、方向づけをしていくかが重要です。

西村会長 インディゴをきっかけに新しく宿泊イメージが付くと大きく状況が変わるかと思いますが、それには20年はかかるでしょうね。

久世委員 現状では、旅館ホテルがあった場所は戸建てになっていって、放っておくと住宅街になってしまいます。そこをどのようにしていくべきなのかは喫緊の課題かと思います。何らかの手立てが必要な状態です。

西村会長 そういった意味では、観光戦略に物理的な空間イメージを入れておく必要があるでしょう。

多くの意見をいただきましたが、体系整理の大枠がダメというわけではなさそうなので、事務局には本日皆さんからいただいた意見を踏まえてブラッシュアップしていただければと思います。観光に対して否定的な地元の人にも良い戦略だと思ってもらうにはどうすべきか、木曾川沿いの変化をどうしていくのか、今動きが出ているところをもう少し深く考えていく必要があります。

また、梅川委員からもご意見がありましたが、目指すべき観光地の姿をもう少し具体的な姿にする必要があります。

それらを踏まえた改訂版ができれば、合意できるものになるのではないのでしょうか。少しブラッシュアップ、総括いただいた上で、専門部会で議論を進めていただけると良いでしょう。

それでは、議題としてはこれで終了いたしましたので、最後に次第のその他について事務局よりお願いします。

事務局 次回以降の日程を説明させていただき、そのあとに次回の日時を決めさせていただきたいと思います。

(資料に沿って説明)

(各委員の日程調査表を確認)

西村会長 集計の間に言い足りなかった意見があれば是非お願いします。

柴田委員 先ほど話に上がっていましたが、観光危機管理の視点は重要かと思います。

住民から、災害時に観光客にも対応ができるのかという意見も聞きます。また、交通まちづくりについても、住民にとっては切実な話になるため議論が必要だと思います。

西村会長

危機管理に関連して、新型コロナウイルスでは具体的にどのように自粛するのかなど、統一した組織がないので一軒一軒伺うなど、あまりにも脆弱ですから、なんらかの事業者の合意形成を図ることができるようにする必要もあるでしょう。他よろしいですか。

それでは集計の結果まとめましたかね。

事務局

はい。次回は、2020年8月18日（火）午後2時～午後4時を予定させていただきます。詳細は追ってご連絡いたします。

それでは、これを持ちまして第2回犬山市観光戦略会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。